

舞踊作品の分析的研究

—空間構成について—

磯 島 紘 子

1. 目 的

舞踊は、人間の思想や感情を、身体の限らない表現性によって表わされる美の形成であると言われている。その形成における主要な要因として、運動、時間、空間の3要因が上げられ、それらが融合し、からみ合って、舞踊表現が成り立っている。それら各要因間の結合関連の様相を、第22回日本体育学会において発表した。その中で特に、表現の生命である身体の動き、すなわち運動要因は、もっとも重要な要因として位置づけられた。そして、身体の動きとともに空間構成のくふうも舞踊作品の価値に大きな影響を与えることが得られた。また、一面では、“舞踊は空間語である。”とも言われているように、舞踊の空間性のもつ役割りは大きいと考えられる。そこで、舞踊創作の指導にあたり、その一側面である空間要因に着目し、同一テーマによる、大学生上位および下位の舞踊作品を分析し、それらの空間構成を比較するとともに、同一テーマによる、小学生から大学生までの舞踊作品を分析比較し、空間構成とテーマ、内容との結合関係が年齢に応じてどのように発達しているか、その変容の過程を探るものである。空間のとらえ方は、身体のもつ立体的な空間と、移動による平面的な空間、および作品全体の印象としての踊跡とし、それらについて比較考察するものである。

2. 方 法

(1) 期間および対象

期 間……昭和46年2月～6月

対 象……本学体育科1年生上位5名、下位5名

真備学園高校ダンス部員 5名

岡山市御南中学校ダンス部員 5名

岡山市伊島小学校5年生女子 5名



同 校 3年生女子 5名

(2) 実験方法

- (イ) テーマ決定は本学体育科1年生50名に、創作したいテーマについて調査し、「生きる」を同一テーマとした。
- (ロ) 対象の選択は、大学生については、本学ダンス指導者2名の評価により行ない、小学生、中学生、高校生については、それぞれの学校のダンス指導者に一任した。
- (ハ) 同一テーマ、「生きる」より、対象にそれぞれのサブ・テーマ選択をさせ創作させて、個々の創作作品をV. T. R. に収録した。
- (ニ) 個々の作品を舞踊記譜法(註:本学研究紀要第15号に発表)に基づき、空間要因を水準、面の向き、移動の仕方およびその方向、踊跡に分類し、次のように分析した。

水準については、空間を7分割し、最高位…ジャンプした高さ、高位…つま先立ちの高さ、やや高位…立位の高さ、中位…屈膝立の高さ、やや中位…立て膝の高さ、低位…膝について坐った高さ、最低位…床に伏臥または仰臥した高さとし斜線で示す。

面の向きについては、♀…前面、♂…背面、○…側面、♂♀…斜前面、♂♂…斜背面とする。

移動の仕方および方向については、●…その場で、↑↓…直線的移動で前進、後進、→←…直線的移動で左進、右進、↙↗…直線的移動で斜前進、斜後進、…ターンによる小円型移動、…大きな弧線の移動とする。

踊跡については、動きはじめをS、終りをFとし——で図示する。

3. 考察とまとめ

(1) 大学生上位5作品、下位5作品の比較について

作品別の空間構成の集計結果は表1に示す。

全体的な傾向をみると、水準については、上位作品は、高位と中位がやや多く、最高位が少ないが、その他はあまり差がみられない。下位作品は高位、やや高位、中位が同程度でやや多く、低位、最低位、最高位は非常に少ない。面については、上位作品は前面および斜前面が同程度で多く、背面、側面、斜背面もわずかであるが使っている。下位作品は前面がもっとも多く、次に側面と斜前面が同程度で比較的多く、背面と斜背面が非常に少ない。移動の仕方については、上位作品は、その場で、がもっとも多く、どの作品も全体の50%程度をしめ、その他の移動については同程度であり、下位作品は上位と同じく、その場が非常に多く、次に直線的左右移動であり、その他の移動は同程度で少ない。踊跡については、上位作品は直線と曲線混合の網状であり、下位作品は曲線的な網状である。

次に作品の一例を上げて、作品のテーマ、内容と空間構成との関連について考察する。作品の空間構成を時間的な流れに沿って図示したものが図1である。

上位作品—A—については、テーマが「父母の記録」であり、前半の内容は「平穏な感じの中に大らかで何か力強さを感じさせる」というのであるが、横向きの低いポーズで始め、平穏な感じを表現し、次に高位とやや高位の水準で、前面と側面を多く使った直線的な移動により、大らかさ、力強さを強調している。後半の“恐ろしい程陰うつな中に激しい生命力を表わす”という内容の部分では、膝をついた低い背面向きのポーズで、暗い陰うつな感じを表わし、徐々に中位から高位へと水準の変化をし、場を広く使って激しい生命力をうまく表現している。このように前半と後半の内容の違いに合わせて、水準、面、移動の変化をくふうし、それらを意図して配列したことにより、この作品の表現効果が高められている。

下位作品—Z—についてみると、テーマは「子供の幻想」であり、“子供の夢は果てしなく大きく、伸び伸びしてきてたえようもない。”という内容に対し、水準は終始、高位とやや高位および中位までで、それらを小刻みに配列し、面は前面、側面、斜面を同量に配し、移動の仕方もある場、直線的移動、曲線的移動を同じ間隔で配列しているため、子供の無邪気に動く感じは強められているが、空間の小刻みな変化により、表現内容がかえって弱くなり、効果的な空間構成になっていないようである。

(2) 小学校3年生～高校生の作品の比較について

作品別の集計結果は表2に示す。

全体的な傾向をみると、小学校3年生の作品は、水準は高位、やや高位、中位のみで、最高位、低位、最低位は全く使われていない。作品—J—のように高位が100%と全く高低変化がみられない。面は前面、側面、斜前面、斜背面が同程度で背面が少ない。これは意味なく空間

をぐるぐる回ったため、意図せず前面、側面、斜面が同量になったものである。移動はその場と弧線の移動が70～100%で直線的移動はほとんどみられない。踊跡は渦巻状である。

小学校5年生の作品は、水準はやや高位が50～93%でもっとも多く、最高位と最低位は全く使わず、あまり高低変化がみられない。面は前面と斜前面のみで背面は全くなく、変化がみられない。移動はその場と直線的な前後、左右移動のみで曲線的な移動は全くない。踊跡は折線状である。

中学生の作品は、水準は高位、やや高位、中位がほとんどで最低位は1作品にわずかにみられるがその他は全くない。面は前面と斜前面が多く、背面は非常に少ない。移動は作品によってかなり差がみられ一概に言えないようであるが、どの作品もその場と直線的移動、曲線的移動を同量に使っている。踊跡は空間をいっぱいに使った左右相称形の複雑な網状である。

高校生の作品は、水準は高位、やや高位、中位、低位が大体同じ程度に使われている。最低位は1作品にわずかにみられるが、その他は全くなく、最高位も非常に少ない。面は前面と側面が多く、背面と斜背面が少なく。移動はその場が43～91%で非常に多く、その他の移動はその作品も全体的に少ない。特に弧線による移動は非常に少なく、移動の変化があまりみられない。踊跡は空間を小さく使った左右相称形の折線と小円の混合型である。

次に、テーマ、内容と空間構成との関連について考察する。(註：図1参照)

小学校3年生の作品—f—は、テーマ「大工仕事」で、“かなづちを打つ、のこぎりを引く、壁を塗る、木を運ぶ”という内容に対し、水準はほとんどやや高位のみで高低の変化がなく、終始前面向きで、その場でのみ動き、空間構成が単純すぎて内容が十分表わされず、作品を変化のないものにしてしている。

小学校5年生の作品—F—については、テーマが「希望」で、“大波に打ち砕かれても希望をもって前進する”という内容に対して、水準は内容に合った高位、中位、低位の配列をし、くふうしているが、面と移動については、ほとんど前面と斜前面向きの直線的前進移動で、“大波に打ち砕かれても”という内容に対し、前面向きの前進ばかりが目立って、かえって表現効果を弱めているようである。

中学生の作品—i—については、テーマが「成長」であり、“幼虫からさなぎ、そして蝶になり外界へ出て、何度もつまづきながら成長していく”という内容に対し、水準は低位から中位、そして高位へと段々に変化させていることにより、表現内容が生かされている。面はほとんどが前面と斜前面で、背面が全くなく、面の変化が少ないため、“つまづきながら成長していく”過程の表現が感じとれない。移動では直線的な前後進、斜前後進などで、内容との関連をくふうしてはいるが、あまり効果的でないようである。

高校生の作品—i—については、テーマが「小鳥の夢」で、“生まれたばかりの小鳥が白鳥を見て、私もあのようにきれいに踊りたいと夢みる”という内容に対し、水準は高位、やや高位、中位を交互に配列し、わずかに低位を使ってやや変化をもちこんでいる。面は前面が多く、側面、斜前面、斜背面など使ってはいるが、これらはターンによる小刻みな変化であるため、あまり効果的でなく表現を単調なものにしてしている。移動もほとんどその場で動き、わずかに斜前後移動とターンによる小円移動があるのみで変化に乏しく、表現効果として生かされていないようである。

以上のことから、大学生上位の作品においては、テーマ、内容に対し効果的な水準、面、移動、踊跡のくふうがみられ、内容と空間要因との結合関係が密接であり、作品の価値を高めているようである。大学生下位の作品においては、水準、面にくふうがみられ、内容の表現効果を高めており、移動、踊跡は意図してはいるが、テーマ、内容との結合は弱い。高校生の作品

は水準との結合がみられ、面、移動、踊跡についてはくふうはしているが、テーマ、内容との結合は弱い。中学生の作品は水準、面を意図してくふうしてはいるが、テーマ、内容との結合が弱く、移動、踊跡はほとんど意図していないようである。小学校5年生の作品は、水準については、ややくふうがみられるが、テーマ、内容に対し効果がみられず、面、移動、踊跡はほとんどくふうしていないようである。小学校3年生は空間のくふうはなく、テーマ、内容と空間要因との結合は全くみられないようである。

ここで、文部省指導要領に示されている空間要因とこれらを照合してみると、小学生は高低、方向の変化が示されているが、実態では、3年生は全然、高低、方向の変化を意図せず、5年生では高低の変化のくふうがみられた。中学生では高低、面、移動の仕方が示されているが、実態では高低、面の変化は意図しているが、移動の仕方にくふうがみられなかった。高校生では面、移動、踊跡のくふうが示されており、実態でもそのことがうかがわれた。以上のような実態からも、舞踊創作において空間構成の指導の必要性が認められ、発達段階に即した空間要因の取り上げ方が重要であると考えられる。と同時に空間要因が他の2つの重要な要因である運動、時間要因との相互関連によって、舞踊の表現性を高めていることをふまえた上での空間要因の理論的な体系づけが必要であると思われる。今回は舞踊作品を空間的な一側面から分析し、比較考察したが、今後はさらに、他の角度からも舞踊作品の分析を行ない、舞踊創作の指導の一助にしたいと考える。

参 考 文 献

- | | |
|-----------|----------------|
| 松本千代栄著 | 舞踊美の探究 |
| 小林信次著 | 舞踊美学 |
| 江口隆哉著 | 舞踊創作法 |
| 日本体育学会編 | 体育学研究 第14巻第5号 |
| 日本体育学会編 | 体育学研究 第13巻第5号 |
| 日本体育学会編 | 日本体育学会 第22回大会号 |
| 岡山県立短期大学編 | 研究紀要 第15号 |

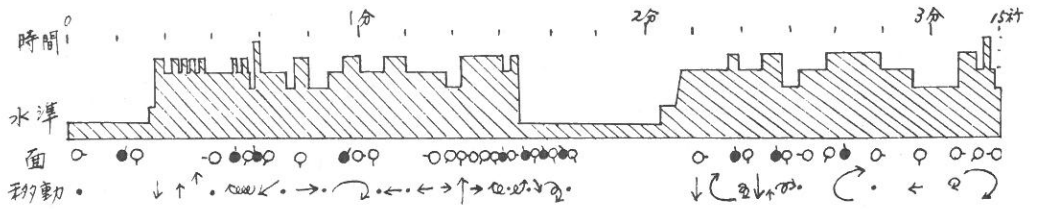
表2. 小学生～高校生に於ける作品別空間構成の集計結果

(%)

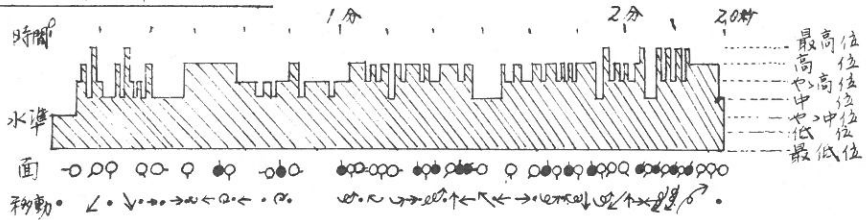
年齢 空間 要素	高 校 生				中 学 生				小 学 校 5 年 生				小 学 校 3 年 生													
	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ホ	ニ	フ	ク	ケ	コ	ソ	セ	シ	ス	ジ	ク	ケ	コ	ソ	セ	シ	ス	ジ	
小鳥の夢	2.8	3.5	3.3	0.4	2.0	5.3	0	10.5	希望	望	望	望	0	0	0	0	0	大工	工	工	工	工	工	工	工	工
最高位	2.8	3.5	3.3	0.4	2.0	5.3	0	10.5	希望	望	望	望	0	0	0	0	0	大工	工	工	工	工	工	工	工	
高位	4.9	15.8	12.1	10.7	20.5	12.9	1.9	64.3	理想	想	想	想	1.9	64.3	1.1	0	0	64.5	足	足	足	足	足	足	足	
中高位	20.8	19.3	9.5	28.3	42.3	59.8	50.0	25.2	心の要	要	要	要	50.0	25.2	46.5	92.9	69.4	46.5	35.5	0	0	0	0	0	0	
中位	20.0	11.3	34.8	6.6	30.2	20.1	30.8	0	理想	想	想	想	20.1	30.8	13.6	5.5	2.3	13.6	0	0	0	0	0	0	0	
中低位	6.6	19.5	17.9	21.8	3.0	1.1	1.3	0	心の要	要	要	要	1.1	1.3	23.7	1.6	17.9	23.7	0	0	0	0	0	0	0	
低位	7.2	30.6	22.4	25.4	2.0	0.8	12.0	0	理想	想	想	想	0.8	12.0	5.1	0	2.9	5.1	0	0	0	0	0	0	0	
最低位	0	0	0	6.8	0	0	4.0	0	理想	想	想	想	0	4.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
前面	49.9	23.9	43.5	61.7	50.2	59.4	35.5	67.2	心の要	要	要	要	35.5	67.2	34.0	66.1	70.5	34.0	3.8	82.8	3.8	10.3	24.2	24.2	5.8	
背面	0.4	3.8	1.4	2.0	18.0	6.9	4.1	1.8	理想	想	想	想	4.1	1.8	0	0	0	0	0	0	0	3.6	7.4	14.2		
側面	11.1	52.9	14.9	30.1	3.7	5.3	24.2	2.8	理想	想	想	想	24.2	2.8	12.2	0	0	0	0	0	51.2	25.5	23.2	40.9		
斜前面	28.3	15.2	38.2	2.6	20.3	19.5	35.5	19.4	心の要	要	要	要	19.5	35.5	37.6	33.9	29.5	37.6	2.1	28.2	2.1	34.0	26.8	28.4		
斜后面	10.3	4.2	2.0	3.6	7.8	8.9	0.7	8.8	理想	想	想	想	8.9	0.7	16.2	0	0	16.2	3.9	16.8	26.6	18.4	10.7			
右の場	60.8	63.2	64.7	91.3	27.0	29.7	20.4	9.9	心の要	要	要	要	20.4	9.9	20.2	29.4	45.7	20.2	79.2	0	29.2	29.2	12.9	0		
直線前後	4.6	6.7	1.0	0	11.6	14.5	6.1	12.7	理想	想	想	想	6.1	12.7	32.9	61.8	25.7	32.9	0	6.3	0	4.7	0	9.8		
直線左右	3.1	8.0	14.4	2.1	17.2	12.1	35.0	3.5	理想	想	想	想	12.1	35.0	20.2	0	8.6	20.2	0	6.3	0	21.2	0	13.0		
斜線前後	16.5	8.1	12.3	1.9	9.5	8.0	28.1	35.9	心の要	要	要	要	8.0	28.1	24.2	8.8	20.0	24.2	0	51.2	0	0	0	0		
小円	12.9	11.1	7.6	4.7	25.3	11.6	4.9	5.6	理想	想	想	想	4.9	5.6	2.5	0	0	2.5	0	0	0	0	0	0		
孤線	2.1	2.9	0	0	9.4	24.1	5.5	32.4	理想	想	想	想	5.5	32.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
跡	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	理想	想	想	想	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	20.8	74.1	70.8	87.1	77.2			
跡	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	理想	想	想	想	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	20.8	74.1	70.8	87.1	77.2			

图1. 作品例の空間構成

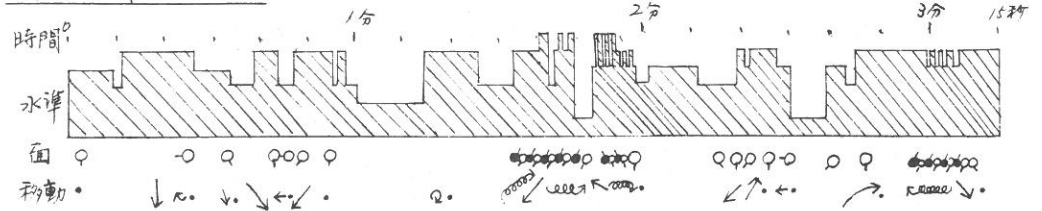
大学生上位作品 -A-



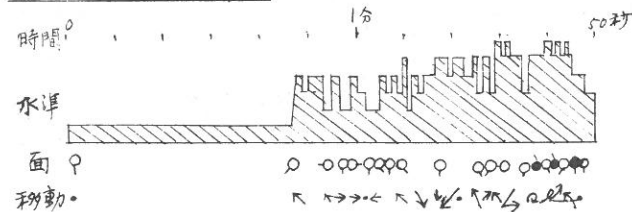
大学生下位作品 -B-



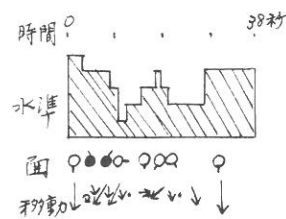
高校生作品 -1-



中学生作品 -1-



小学校5年生作品 -F-



小学校3年生作品 -f-

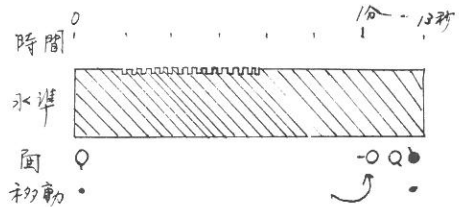


表 1. 大学生における作品別空間構成の集計結果

空間 要因		上 位					下 位					(%)
		A	B	C	D	E	V	W	X	Y	Z	
作品名 テーマ		父母の絆	現代性	一条の糸	めざめ	霧の中	夢	生きる	生きる	青春	子供心	
水準	最高位	1.0	3.2	2.2	2.3	1.9	4.3	3.3	2.3	1.9	4.6	
	高位	30.5	32.0	14.6	33.6	11.1	25.1	11.6	20.8	30.3	38.6	
	やゝ高位	28.7	16.5	15.0	14.1	3.9	18.6	34.0	31.1	25.9	29.2	
	中位	13.6	15.8	37.4	15.0	46.6	27.9	21.6	25.3	3.4	23.4	
	やゝ中位	10.0	4.6	15.7	3.6	5.7	24.1	2.8	9.0	16.5	4.2	
	低位	16.0	16.2	10.2	19.1	30.0	0	20.7	10.1	18.6	0	
	最低位	0	11.7	4.9	12.3	0.8	0	6.0	1.4	3.4	0	
面	前面	37.5	23.0	50.9	35.1	28.3	63.7	27.9	46.0	74.8	27.4	
	背面	3.8	26.1	12.4	4.6	6.1	9.3	3.0	0.9	5.4	6.8	
	側面	25.2	8.1	14.0	8.5	6.6	5.1	16.7	30.8	15.7	35.3	
	斜前面	28.2	37.9	20.6	38.1	47.5	15.4	49.7	14.8	1.4	23.9	
	斜背面	5.3	4.9	2.1	13.7	11.5	6.5	2.7	7.5	2.7	6.6	
移動	この場	50.6	46.2	45.5	43.7	46.2	41.2	44.6	68.2	53.8	28.6	
	直線前後	11.7	5.7	7.6	7.2	6.4	10.0	0.9	10.1	7.0	7.2	
	直線左右	12.7	19.7	12.7	15.1	9.3	11.2	27.8	4.3	17.6	22.4	
	斜線前後	4.5	12.0	17.2	11.6	20.6	8.4	14.3	0	1.4	15.2	
	小円	8.8	8.4	15.2	10.3	12.7	16.4	7.3	9.6	13.5	18.4	
弧線	11.7	8.0	1.8	12.1	4.8	12.8	5.1	7.8	6.7	8.2		
足跡	